

平成26年度 第1回調査・研究企画会議 議事概要

1 日時：平成26年6月27日（金） 12：59～15：17

2 場所：食品安全委員会中会議室

3 出席者（7名）五十音順

圓藤 陽子（(独)労働者健康福祉機構関西労災病院

勤労者医療総合センター・産業中毒センター長）

尾崎 博（国立大学法人東京大学大学院農学生命科学研究科教授）

鬼武 一夫（日本生活協同組合連合会品質保証本部安全政策推進部部長）

川村 孝（国立大学法人京都大学環境安全保健機構健康科学センター長）

◎佐藤 洋（食品安全委員会 委員長代理）

山添 康（食品安全委員会 委員長代理）

三森 国敏（食品安全委員会 委員長代理）

（◎：座長）

その他、事務局から姫田事務局長ほか12名が出席

4 議題

（1）平成26年度内閣府行政事業レビュー公開プロセスの結果報告

（2）「食品の安全性の確保のための調査・研究の推進の方向性について（ロードマップ）」の見直しについて

（3）その他

5 議事概要

（1）平成26年度内閣府行政事業レビュー公開プロセスの結果報告

○ 事務局から、平成26年6月12日に研究事業（食品健康影響評価技術の研究に必要な経費）について行われた「平成26年度内閣府行政事業レビュー公開プロセス」の結果報告と今後の対応等について説明し、審議を行った。

○ その結果、公開プロセスにおける研究事業の評価体制に係る指摘を踏まえ、今後、終了した研究課題の事後評価について評価者（調査・研究企画会議構成員）の一部入れ替えを検討するほか、研究テーマの選定も含めた研究プログラム全体の事後評価の実施についても検討していくこととなった。

○ なお、公開プロセスにおいて、近年、食品安全行政において国際的に採用されているリスクアナリシスの考え方や、それを踏まえたリスク評価とリスク管理の役割の違いを考慮しない指摘も見られたことについて、行政事業レビューの質についても検証されるべきではないかとの意見があった。

(2) 「食品の安全性の確保のための調査・研究の推進の方向性について（ロードマップ）」の見直しについて

- 事務局から、平成22年にロードマップを策定した背景、今回見直すこととなった経緯、改定方針（研究分野の再構築等）、改定までのスケジュールについて説明し、審議を行った。
- その結果、現行のロードマップで示している4つの研究分野（①化学物質関連分野、②生物学関連分野、③新しい評価手法の開発に関する分野、④自ら評価や新たなハザードへの対応、緊急時対応等に必要な分野）については、各委員の意見や行政事業レビュー公開プロセスにおける論点（「公募すべき研究分野の設定は適切か」、「どんな研究でも応募できるようなものになっていないか」）も踏まえ、研究のアウトプットを明確にする観点から事務局から提示した新たな3分類に再構築することが了承された。なお、3分類のタイトルについては、各委員の意見を踏まえて修正することとなった。
- 今後、事務局にて改定原案を作成し、食品安全委員会専門委員やリスク管理機関の意見も適宜反映しながら、審議していくこととなった。また、ロードマップの改定と並行して、平成27年度の調査・研究の優先実施課題についても検討していくこととなった。
- その他、調査・研究企画会議の公開の可否について審議し、「関係者や関心の高い者に審議内容を聞いてもらうことは重要」、「議題が食品安全委員会の考え方に関わるような内容であれば、その部分を非公開とする必要はない」等の意見を踏まえ、議題に応じて、公開できる部分は公開していくことが了承された。

(3) その他

- 事務局から、本年度の9月末までの調査・研究企画会議等の開催スケジュールについて説明した。

—以上—

(注：本会議は個別具体的な研究者や研究課題名及び研究の内容に言及して議論が行われることから、非公開で行った。このため、本会議の議事概要についても、それらが特定されない形で公表するものである。)